

2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 50514 単位数 : 4

| | | | |
|-----------|------------|-------|------|
| 科目名 | 物権法 | 科目責任者 | 宮崎 淳 |
| 課題と試験担当教員 | 須藤 悦安、宮崎 淳 | | |
| 履修方法 | S スクーリング学習 | | |
| ナンバリング | CLAWP320 | | |

■ 科目概要

本科目は、民法第2編物権を対象とする。科目の内容は、前半部分では「物に対する権利」である物権を取扱い、後半部分では「債権の効力を確かなものにするための物権」である担保物権を解説する。

前半の主要論点である物権変動論は、契約法と深く関係しており民法全体の中でも重要な地位を占めている。また、抵当権の領域においては、近時、いくつかの重要な判例が出され、その効力のあり方をめぐって様々な議論が展開されている。したがって、前半は物権変動論を基軸に、後半は抵当権の効力を中心に学習することが望まれる。

当科目においては、制度・条文ではその趣旨を理解すること、解釈論については判例・学説の見解を前提として、それらに対立する場合にはその原因を探求することが肝要である。さらに、判例の動向をふまえ、現代社会における物権法の諸制度の意義と機能についても考察してほしい。

■ 到達目標

- 1) 物権変動論および抵当権の効力を中心として、基本的な論点についての判例および学説の考え方を説明することができる(成績評価Bレベル)。
- 2) 物権法の諸制度が現代社会でどのように機能しているか解説できる(成績評価Bレベル)。
- 3) 基本的な論点について、判例および学説の解釈を踏まえたうえで、自分の見解を根拠を示しつつ論述することができる(成績評価Aレベル)。

■ 科目の計画・内容

| 学習範囲 該当する章など | 学習内容 |
|----------------------------|---|
| ■物権法編 第1章 序論 | 1 物権の意義と性質 2 物権の種類 3 物権の客体 |
| 第2章 物権の効力 | I 序説 II 優先的効力 III 物権的請求権 |
| 第3章 物権の変動 I、II 1、2、3 | I 序説 II 物権変動を生ずる法律行為 1 物権行為と債権行為 2 意思主義か形式主義か 3 物権行為の独自性、無因性の問題 |
| 第3章 物権の変動 II 4、III 1、2 | 4 物権変動の時期の問題 III 不動産物権変動における公示 1 序説 2 公示方法としての登記 |
| 第3章 物権の変動 III 3 (1)、(2) | 3 不動産物権変動と対抗 (1) 対抗とは何か (2) 登記を必要とする物権変動 1) 取消と登記 2) 解除と登記 |

| 学習範囲 該当する章など | 学習内容 |
|---|---|
| 第3章 物権の変動 Ⅲ 3 (2) | *メディア授業の理解確認のため、 小テストを実施 3) 共同相続と登記 4) 取得時効と登記 |
| 第3章 物権の変動 Ⅲ 3 (3) | (3) 第三者の範囲 |
| 第3章 物権の変動 Ⅲ 4、5、6 | 4 登記の推定力と公信力 5 仮登記の効力 6 登記の手続 |
| 第3章 物権の変動 Ⅳ 1、2、3 | Ⅳ 動産物権変動における公示 1 序説 2 動産物権変動の対抗要件 (1) ――「引渡し」 3 動産物権変動の対抗要件 (2) ――「登記」 |
| 第3章 物権の変動 Ⅳ 4 | Ⅳ 4 動産の即時取得 (善意取得) |
| 第3章 物権の変動 Ⅴ、Ⅵ | Ⅴ 立木等の物権変動と明認方法 Ⅵ 物権の消滅 |
| 第4章 各種の物権 Ⅰ、Ⅱ 1、2、3 | Ⅰ 序説 Ⅱ 占有権 1 占有制度の意義と根拠 2 占有の成立と態様 3 占有権の取得 |
| 第4章 各種の物権 Ⅱ 4、5、6 | 4 占有の効果 5 占有権の消滅 6 準占有 |
| 第4章 各種の物権 Ⅲ 1、2、3、4 | Ⅲ 所有権 1 序説 2 所有権の内容 3 相隣関係 4 所有権の取得 |
| 第4章 各種の物権 Ⅲ 5、6 | 5 共有 6 建物の区分所有 |
| 第4章 各種の物権 Ⅳ、Ⅴ | Ⅳ 地上権 Ⅴ 永小作権 |
| 第4章 各種の物権 Ⅵ | Ⅵ 地役権 Ⅶ 入会権 |
| ■担保物権法編 第1章 序論 第2章 民法典上の担保物権 Ⅰ | Ⅰ 留置権 |
| 第2章 民法典上の担保物権 Ⅱ | Ⅱ 先取特権 |
| 第2章 民法典上の担保物権 Ⅲ | Ⅲ 質権 |

| 学習範囲 該当する章など | 学習内容 |
|-------------------------------|---|
| 第2章 民法典上の担保物権 IV 1、2、3 A、B | IV 抵当権 1 序説 2 抵当権の設定 3 抵当権の効力 A 被担保債権の範囲 B 抵当権の効力の及ぶ目的物の範囲 |
| 第2章 民法典上の担保物権 IV 3 C、D | C 抵当権と物上代位 D 抵当権の優先弁済的効力 |
| 第2章 民法典上の担保物権 IV 3 E、F | E 抵当権と利用権の関係 F 法定地上権 |
| 第2章 民法典上の担保物権 IV 3 G、H | G 抵当不動産の第三取得者の保護 H 抵当権の侵害 |
| 第2章 民法典上の担保物権 IV 4、5 | 4 抵当権の処分 5 抵当権の消滅 |
| 第2章 民法典上の担保物権 IV 6、7 | 6 共同抵当 7 根抵当 |
| 第3章 非典型担保 I、II | I 序説 II 仮登記担保 |
| 第3章 非典型担保 III | III 譲渡担保 |
| 第3章 非典型担保 IV | IV 所有権留保 |

■ ディスカッション・ペアワーク

ディスカッション・ペアワークを行います。

■ DVDに関する内容理解の確認方法

受講者の理解の程度をみて判断します。

■ 学習方法・評価

| 種別 | 評価基準 |
|------|---|
| 試験 | 試験問題につき、判例および学説の考え方をふまえたうえで、自身の見解について根拠を示しつつ、論理的にかつ説得力をもって論述できているか否かを基準とする。 |
| レポート | 法制度の趣旨とともに、判例および学説の見解を論じた上で、自身の見解について根拠を示しつつ、論理的にかつ説得力をもって論述できているか否かを基準とする。 |

■ 評価方法

○スクーリング試験：70%

○レポート：30%

■ 教科書

書名：民法Ⅱ－物権 第3版 補訂
著者名：淡路剛久他
出版社名：有斐閣
出版年：2005.4
版：第3版
刷：1
ISBN：978-4-641-15934-1

■ 参考書

■ 履修上のアドバイス

特になし

■ 自習時間

【スクーリング学習】 スクーリングを受講する前にテキストの該当箇所を少なくとも2 - 3回は読み、わからない点や質問事項を整理してこることが望ましい。予習時間としては、1コマにつき3 - 4時間は必要である。レポート作成は、1通につき30時間ほどの努力をしてほしい。

■ 担当者のプロフィール

創価大学教授、英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て、2007年より現職。博士（法学）。専門分野は、民法および水法。主な著書に『水資源の保全と利用の法理——水法の基礎理論』（成文堂）、『環境用水——その成立条件と持続可能性』（共著、技報堂出版）、『コンメンタール借地借家法〔第3版〕』（共著、日本評論社）、『レクチャー民法学 債権各論』（共著、成文堂）など。